

会 議 録				
平成 20 年度第1回 社会教育委員の会議	日 時	平成 20 年 4 月 25 日(月) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	井土、伊藤、浦野、倉持、小林、武田、田尻、田中、彦坂、本川各委員 (欠席)なし		
	その他	向井教育長、渡辺生涯学習部長、尾崎学習課長、林スポーツ振興課長、 田中図書館長、中嶋公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 教育長挨拶				
(2) 平成 20 年度担当紹介				
(3) 平成 20 年度都市社連協定期総会について				
(4) 平成 20 年度予算説明				
(5) 社会教育関係団体の登録について				
(6) 平成 20 年度第 1 回図書館協議会の開催について(報告)				
(7) 第 20 期小金井市公民館企画実行委員の選出について				
(8) 平成 20 年度東京都公民館連絡協議会定期総会について				
(9) その他				
2. 協議事項				
(1)				
(2) その他				
1. 報告事項				
(1) 教育長挨拶 (向井教育長)				
<p>皆さん、おはようございます。大変お忙しいところお集まりいただきまことにありがとうございます。本年度第 1 回ということで、一言ごあいさつを申し述べさせていただきたいと思う。</p> <p>本年度の生涯学習部の主な事業についてだが、生涯学習課では、第 2 次生涯学習推進計画策定作業が控えている。これは来年度から 25 年にかけての推進計画を策定していただくものである。このほかに放課後子どもプランの事業など、地域の人材育成を見据えた種々の事業を積極的に推進していきたいと考えている。スポーツ振興課で</p>				

は、国際スリーデーマーチが5月の連休に実施される。全国から本当にたくさんの方が参加される事業である。こういう全国的な事業をきっかけに小金井市のよさを積極的にPRしていきたい。この事業には、開催当初から中学生がボランティアとして参加しているが、今年度は教育委員会の主要な施策として、中学生の社会貢献活動の推進を掲げた。その結果もあつたと思うが、現在200名を超えるボランティア、中学生が参加しそうということで、ぜひ注目していただきたいと思っている。最後になるが、今年度は市制施行50周年という年に当たっている。キャッチコピーとかマスコットの、キャラクターデザインも決まり、市内のあちこちに見受けられると思うが、現在、さまざまな事業の準備をしているところである。ぜひ皆様にも事業等に関心を持っていただいて、時には参加していただければと思う。皆様には、日ごろのご経験、豊富な見識を生かし、本会の協議にぜひ協力していただきたい。そして小金井市の社会教育のさらなる推進にご尽力いただけたら大変ありがたい。よろしく願います。

(2) 平成20年度担当紹介

[渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書館長、中嶋公民館長、木村生涯学習課主事、向井教育長の順に挨拶があつた。]

(3) 平成20年度都市社連協定期総会について

(浦野委員)

先週の土曜日に東大和市のハミングホールで開催された。小金井市社会教育委員からは、田中議長と井土副委員長、本川委員と伊藤委員、そして私の5人、事務局は尾崎課長と木村主事が出席した。定期総会の議事は、平成19年度の事業報告、20年度の事業計画についてで、すべて承認された。なお、平成20年度の社連協統一テーマは「いきいきと学び、地域に貢献する社会教育 ～世代を越えて文化・情操を高めあうまちづくり～」。

会議については、10月ごろに開催されるブロック活動。そのほか、11月に清瀬の市民センターで交流大会が計画されている。また、10月には第50回全国社会教育研究大会と関東甲信越静社会教育研究大会が開催される。総会の最後に、20年度の新会長を選び、清瀬市の辻浩氏から新役員の紹介があり、小金井市の田中議長も第5ブロックの幹事として紹介された。

引き続き社会教育委員の研究会が行われた。講演テーマは、子どもの生活習慣確立のための、地域とともに楽しむ食育で、清瀬市社会教育委員の野沢氏が講演した。今なぜ食育なのか、食育を大切にすることから生きる力が育ち、自己責任で社会を生きていかなければいけない時代において、子どもたちが食育を身につけることによって生きる力が育ち、自分の未来について責任を持つことができるのではないかという内容の講演をされた。

(4) 平成20年度予算説明について

(渡辺生涯学習部長)

20年度には、生涯学習分野でかつてない大きな行政としての取り組みがある。

平成20年度の概要については、市の一般会計の予算総額は369億7,100万円である。前年度と比較して28億4,175万円増、率で8.3%増。これは、過去ベスト3に入るぐらいの増加率と予算の規模。教育費の予算額は46億1,661万3,000円、構成比で言えば12.5%、前年度比は2.5%増。生涯学習分野の予算総額は、11億4,760万2,000円、前年度比では1.7%減。金額で言うと2,026万2,000円減となる。この要因は、公民館費で用地取得費の償還が終わった分、1億600万ほど減になっているということと、貫井南分館の耐震補強、それから緑分館の改修工事で増になり、差し引き5,200万程度の減で、総額的に2,000万の減になっているので、各分野の予算が削られたということではない。用地取得費の償還が終わって、そこで大幅な減が生じたものである。実質的には少し増になると見ている。また、生涯学習分野全体の職員人件費については4億5,952万5,000円、前年度より387万5,000円増額。

生涯学習課の今年度の重要な事業として、第2次生涯学習推進計画の策定がある。これについては、社会教育委員の皆様にご協議をいただき、今年度中に作成をする予定になっているので、ぜひよろしくお願ひしたいと思う。また、市制施行50周年記念の記念行事が種々入ってくる。

図書館については、今のサービスのあり方について、市民からかなり多くの要望、あるいは強い要望が寄せられている。これに対応するため、図書館長が図書館協議会に諮問をしている。開館時間の大幅な拡大、それから開館日数の大幅な拡大をメインテーマとして、実現可能な体制について、昨日、図書館協議会に諮問した。

公民館は、職員体制を一部見直し、各分館の体制を非常勤1名増という取り組みをしている。これも20年度大きなテーマとして、行政全体として取り上げている。第2次行政改革大綱の改訂版にも計画として載っている。これも行政として大きな作業になる。

総合体育館と栗山公園健康運動センターでの指定管理者の導入が第2次行政改革大綱の改訂版に挙げられている。これも20年度中に移行作業を済ませ、21年4月1日から指定管理者を導入することで現在取り組み中である。条例の改正、規則の改正、いろいろなことがあるので、それぞれのタイミングで会議の中でも示していきたい。

以上、各分野、かつてない大きな取り組みがある。ぜひ社会教育委員の会議のメンバーにもバックアップをお願いしたい。

(尾崎課長)

第2次生涯学習推進計画の策定にかかわる委託料ということで241万円の予算計上をしている。昨日、委託先の業者が決まった。平成18年度からまちづくり交付金を利用して実施している団塊の世代のための地域参加講座に29万6,000円、市民カルチャースクールに69万6,000円。これは昨年と同額を計上している。そのほか、

成人の日の記念行事として158万5,000円を計上、放課後子どもプラン事業で690万7,000円計上しており、そのうちの446万5,000円は都補助金である。その他、市史編さん資料調査委託料として、441万円、また、今年度は市制施行50周年記念事業として787万3,000円を計上している。その内容としては、郷土かるたの作成、市史（小金井桜編）の作成、50年の歩みのCD-ROMの作成。そのほか、昨年、学芸大学を利用して開催し、好評を得た青少年のための科学の祭典も記念事業として実施することになっている。以上が、生涯学習課の主な事業である。

(林スポーツ振興課長)

東京国際スリーデーマーチの交付金が、昨年の200万円から220万円に増額した。これは市制施行50周年記念事業を周知するための横断幕や看板の作成料になる。市制施行50周年記念事業として49万円、これは50周年記念事業でNHKの特別巡回ラジオ体操全国放送を小金井公園で9月に実施する。この関係のスタッフの経費として49万円を計上している。栗山公園健康運動センターの省エネルギー対策工事に1,040万円、総合体育館の設備関係の修繕料として620万円、上水公園グラウンドのサッカーゴールの買いかえで48万円。スポーツ振興課の予算の特徴としては以上である。

(田中図書館長)

図書館は築32年経過をしており、図書館備品の老朽化対策、施設の管理の充実により図書館環境の改善を図り、利用者の図書館利用の促進を図るため、予算を計上した。また、今後の図書館運営に対してご意見をいただくため、図書館協議会の開催回数を通常3回のところを5回に増やす。維持管理関係であるが、図書館の清掃管理委託については、図書館の夜間開館の時間帯に管理員の不在時間があったので、そこを埋めた。別館の個人貸し出し日の管理の充実、別館の清掃管理の充実で、図書館の清掃管理の委託の部分について充実させた。また、備品の新規交換を行った。1階一般室のアームレスチェアが古くなったので買いかえを行う。ブックポストについては、本館2台、東分室1台であるが、これを新しいものと交換する。緑分室にある寝ころび台についてもかなり老朽化しているので、新しいものと交換する。引き続きの事業になるが、ダイジー図書について、去年、初心者講習会を開催した。今年については初級者講習会で、ダイレクトにダイジーを録音できる講習会を開催する。おはなし会ボランティアの養成講座を昨年実施したが、今年についても同様に開催する。図書館関係については以上である。

(中嶋公民館長)

1億3,787万9,000円が歳出予算であるが、対前年度比で約27%の減。(仮称)貫井北町地域センター用地取得費の支払いがなくなったので、実質的には対前年度比増となる。貫井南センターの耐震補強工事関係はまちづくり交付金ということで一部国から交付される。また、緑センターは平成3年の建設である。こちらの冷暖房機器の改修並びに照明器具等の改修工事を予定。そのため実質増。事業予算の特徴としては、少年教育事業と青年教育事業を見直し、成人教育事業の世代を越えた講座の充実を図る。また、男女共同参画教育事業も見直しをし、団塊の世代に男女共同を考えてもらうよう

な講座を充実させたい。結果として、成人教育事業は57回から88回に増。本町分館のパソコン講座を見直し、第4番目のITサポートセンター、パソコンなんでも相談を開設する。また、平成21年度には東分館にもITサポートセンターを開設するので、全館体制がとれるようになっていく。最後に、市制施行50周年記念事業として、「市民参画の未来像～私たちの提言」を、15歳から25歳の若者と、近隣の学校などとも連携して10月ごろにシンポジウムを開催予定。

(5) 社会教育関係団体の登録について

(尾崎生涯学習課長)

平成20年3月17日から平成20年4月25日までの追加登録は1件もなかった。よって、平成20年4月25日現在、登録件数102団体である。

(伊藤委員)

社会教育関係団体に登録されていなければ、教育委員会の後援はとれないのか。

(渡辺生涯学習部長)

後援は社会教育団体でなければならないということはない。ただ、社会教育団体として登録すると、施設の利用料の割引等の恩典はある。補助金の交付の対象になり得る。一覧については、次回の会議のときに、その時点の最新のものをお出ししたい。

(6) 平成20年度第1回図書館協議会の開催について（報告）

(田中図書館長)

平成20年度第1回図書館協議会を昨日午後6時から図書館本館で開催し、図書館の運営体制の見直しについて諮問した。図書館では、小金井市第2次行財政改革大綱（改訂版）で、図書館業務の見直しとして、移動図書館等の業務の見直しを行い、一部非常勤化を図ること、図書館本館の業務の見直しを行い、一部非常勤化を図ることが項目として挙げられていた。よって、平成16年7月に図書館協議会の運営体制の見直しについて図書館協議会に諮問し、平成17年6月に答申を受けた。この議論過程及び答申に基づいて、正規職員5名を減員して、非常勤嘱託職員を増やし、現在、正規職員16名、非常勤嘱託職員23名を配置してサービス拡大を図ってきているところである。しかしながら、議会において、行財政改革調査特別委員会で、現在、図書館への指定管理者導入の陳情書が提出され、審議中である。また、図書館時間の拡大に関する質疑も数多く出ている。また、市民アンケートや図書館長への声として、開館時間の拡大等が多く寄せられている現状である。前回の答申において、図書館の市民サービスの基盤が一定整備できた時点で初めて図書館業務のあり方、委託、NPO、指定管理者などを見直す必要があるというふうに結んでおり、答申後3年近くが経過するので、一定の成果が出ていると考え、サービスの拡充を図るには現行の人員体制では困難と考え、どのようにしたら図書館運営の見直しができるのか、市民要望にこたえるために諮問したものである。なお、答申については平成21年7月を予定

している。次回は7月だが、日本図書館協会の職員の方を招き、考えを聞き、今後に役立てていきたい。諮問の内容であるが、図書館の運営体制の見直しについて。「図書館に対する市民要望は、開館時間の延長を始めとし数多くある。しかしながら、現在の財政状況では、新たな財源を確保することは困難であり、現行の図書館費の中で工夫等を行い、利用者サービスの向上を図ることが求められている。現行の職務内容及び職員体制の見直しをし、職員でなくても可能な部分は、民間活用（委託・NPO・指定管理者など）の導入を図り、市民要望に応えていきたい」という内容で、矢崎会長に諮問した。来年の7月までに全部で7回開催するので、その都度過程を報告する。

(7) 第20期小金井市公民館企画実行委員の選出について。

(中嶋公民館長)

第19期企画実行委員の任期が平成20年7月20日に満了するため、第20期の委員候補者を各種団体からの推薦並びに市民からの候補者募集を市報5月15日号に掲載する。任期は平成20年7月21日から22年7月20日。本館で説明会を6月3日火曜日、午後2時に実施予定。推薦、立候補者の締め切りは6月13日金曜日、午後5時。教育委員会同意の議案書提出は7月8日火曜日。本館で委嘱状を7月22日火曜日、交付予定である。

(8) 平成20年度東京都公民館連絡協議会定期総会について

(中嶋公民館長)

4月16日水曜日、午後2時から3時30分にかけて東久留米市立中央公民館ホールにおいて、平成20年度東京都公民館連絡協議会定期総会が開催された。代議員数94人中83人の出席と6人の委任状提出により総会は有効に成立した。また、町田市が議事進行をし、平成19年度事業報告、一般会計予算並びに決算の認定、財産調書、監査報告、平成20年度の役員について承認された。次いで、羽村市が平成20年3月末日に脱退届の提出があったことが報告された。公民館ではないという理由が一つあることと、もう一つは職員体制が減になったということから脱退をした。次に、平成20年度運営方針及び事業計画、一般会計予算、特別会計予算の各案が、質疑の後、可決された。20年度の役員としては、職員部会の副部長市として小金井市が参画する。また、平成21年度には第47回東京都公民館研究大会が来る予定。なお、第46回東京都公民館研究大会は町田市が大会事務局市として、今年12月14日日曜日、開催する。

(9) その他

(尾崎生涯学習課長)

今年度は平成21年度から25年度までの第2次生涯学習推進計画の策定をお願いすることになる。策定にかかわる今後の予定であるが、委託業者が株式会社ジャパン

インターナショナル総合研究所に決定した。業者と調整を進めているが、計画のまとめ方については、第1次推進計画の形態を踏襲するような形で協議をしてまとめていただきたい。社会教育委員会の小委員会で協議をいただきたい。第1回は6月11日を予定しており、6回ないし7回程度ご協議いただきたい。11月の半ばぐらいには中間案としてまとめ、12月から1カ月間程度パブリックコメントを実施、2月にはパブリックコメントの内容を検討、最終的には3月の中旬ぐらいをめどに完成を目指していきたい。

2. 協議事項

(1) 平成20年度第5ブロック研修会について

(田中議長)

第5ブロック研修会の素案を私のほうから出させていただいた。大まかな方向をほぼ決め、それに従って臨んでいきたい。期日については、第1案は10月25日、第2案としてはその1週間ぐらいの午後はどうか。参加市及び人数だが、各市の社会教育委員及び小金井市生涯学習課の職員の方をお願いするので、委員約40名、関係職員を入れると大体50名前後になるか。開催場所は、農工大学の小金井キャンパスにある科学博物館、萌え木ホール、マロンホールが考えられる。研修会の内容だが、今年の統一テーマが、「いきいきと学び、地域に貢献する社会教育」、サブタイトルが「～世代を越えて文化・情操を高めあうまちづくり～」である。社会教育にかかわる公民館、図書館、学校、放課後子どもプランのコーディネーター、体協関係、スポーツ関係、芸術関係、NPOの連絡協議会、町内会あるいは子ども会の代表者等に出てきてもらう。この中から5つぐらいの方に出ていただいて、活動内容、どういうところに困っているのか、どう改善していったらいいのかというようなことを、事前に話をしておいて、実際には簡単にまとめたものを羅列、あるいはまとめた表にして皆さんに配り、話をさせていただくようなことをしながら、活動状況、問題点、どうやってつないでいくのかというような要望みたいなものをしていただき、そこに各市の委員の皆様が加わった討論というようなものを考えている。大体2時間ぐらい。農工大で行う場合には、その後博物館見学が可能。昨年度は調布で懇親会が行われた。その前までは、二、三年はお休みしていたそうであるが、ブロック活動をして、いろんな市の情報交換ができ、ぜひやってほしいという要望があるので、できれば1時間ぐらい簡単に懇親会ができればよい。

[期日は10月25日土曜日の午後に決定した]

(田中議長)

場所は、農工大学の科学博物館の会議が連休明けにあるそうなので、そこで諮りたい。農工大を第一候補、萌え木ホールを第二候補とする。

(本川委員)

繊維博物館というのは小金井にあり、全国でも珍しい、本当に貴重なものもたくさ

んある場所だ。こういう機会に、近隣の方たちにもご覧いただく機会を設けたらどうか。駅からも近く、それほど足場も悪くない。環境的にも小金井らしさということを考えると、キャンパスの中でよい。

(田中議長)

次回には、シンポジウムをやる地域を決め、5月、6月ぐらいでコンタクトをして、7月ぐらいに話をまとめ、8月ぐらいに1回顔合わせをできたらいい。

(委員)

2008年度の統一のテーマ、「いきいきと学び、地域に貢献する社会教育 ～世代を越えて文化・情操を高めあうまちづくり～」について社連協からこういった考え方やこういった方針でこういうテーマを構成して、このテーマをどのように進めていくかという話はあるのか。そういったものがあれば具体的なイメージがわくかと思う。

(田中議長)

この統一テーマの題については、詳しい解説はなかった。各市各ブロックでこのテーマに沿った視点で考えてみるということだろう。

(倉持委員)

大きなテーマは、実際、私たちの話し合いからしても後づけなので、やはり地域の課題から、こういう問題意識でこういう書き方をしたということが少しお話しできれば、統一テーマには最終的には何らかの形で迫ればよいという気もするので、むしろ、実際の活動や、実際のあらゆる現場の問題意識から、具体的なテーマで私たちの問題意識でつくられた研修会であるということが最初に出せれば、問題意識を共有して話し合いもしやすいのではないかな。つなぐとか、ネットワークとかキーワードが出てきたと思うので、団体とか組織とか人をつなぐという点を出していけば、ほかの市の委員さんたちもイメージしやすいのではないかな。シンポジストに関しては、だれを選ぶかは大事だと思うが、先に小さな地域のほうを決めて具体的に考えるというやり方もある気がするし、あるいは、人から選んでいって、ここら辺の人たちが活動しているのはここだからというふうにして地域を選ぶ方法もある。幾つかの団体にも顔を出されている方という形で絞り込んでいくと、具体的に顔が思い浮かんでくるのではないかな。時間も限られているので、複数の団体に足をかけている方に来ていただければ、8団体でなくても、この人は公民館という枠で来てもらうけど、NPOもやっている等、人数は減らせるだろう。

(委員)

シンポジストとしては何人ぐらい考えているか。

(田中議長)

資料には8人ぐらい挙げたが、イメージ的には五、六名の方にお話をしていただければと考えている。

(委員)

他市の方にもお願いするのか。

(田中議長)

小金井の中で5人ぐらい選ぶと考えている。他市の人をお願いするとなるとまた大変なことになる。趣旨等については他市の社会教育委員には、先に連絡しておき、それについて皆さんの考えを持ってきてくださいという案内をすればよい。

(本川委員)

最終的には、どう紡いでどうしたいのかという提言まで持っていけるとよい。コーディネーターの方は大変だと思うが、事前に準備をきちんとすれば、そういう可能性に言及するところまで持っていける。小金井の小さな地域の皆さんの考えていることを集約し、こういう方向に持っていきたいというところまでいけるとよい。

(彦坂委員)

小金井の歴史をかながみれば、かなりの力を持った組織団体があった。それぞれに、まずどういう柱でまとめるか。この紡ぎ方も、たて糸とよこ糸の、中間もある。まず大きい組織を統括してみないとネットワークにならないだろうと思う、最初からネットワークを提案しているが、なかなか縦割りを統合するというのは、行政ではやりにくいかもしれないが、我々市民だったらできるかもしれない。

(田中議長)

提言までいかなくて、ぐちゃぐちゃになってもいいかなという気はしないでもない。そこまでもいかない状態でお互いにやっているわけであるから、そういう面もあってもいいのかなという気もするし、102ある団体で知らない団体もある。そういう中で、1回はそうやって投げかけてみるのもよいのではないか。

(彦坂委員)

我々自身も知らないということは、要するに情報がない。なので、まず情報を収集することがここの場所の問題だと思う。求めていく過程を、その結果を、シンポジウムでどの程度提起できるのか。

(本川委員)

議長のおっしゃることはわかるが、ただ、ある程度目標みたいなものを持たないと、なかなかそこに行けないと思う。私は、結果的にぐちゃぐちゃになっても仕方がないとは思いますが、過程としては一つ一つ、そこに向かっていけるようなものを置いた上で、整えていくというふうにとできると良いと思う。

(田中議長)

それぞれの意見があり、それぞれの考えがあったときに、無理やりに何かの方向に行くというのもまた変だろうという趣旨の発言である。確かにある方向に向かっていきたいと思うので、そこをご理解願いたい。

(井土委員)

今までだと、同一テーマについて基調講演というのがあって、その基調講演をもとに分科会に分かれて話し合い、その結果を報告し合うというので、割合と短時間でもまとまっていたように思う。小金井には、表彰された公民館があったり、それから、

スポーツ関係ではスリーデーマーチが来たり、科学の祭典とか、生涯学習推進計画をつくったとか、そのようなことが一つの骨になっていくと後がやりやすい。102の団体から何か引き出そうと思っても、なかなか大変だ。また、その人たちから話を聞くのも大変であるので、今お話ししたようなものが核になっていくと楽にいくのではないかと思うが、どうか。

(伊藤委員)

第5ブロック研修会、小金井市としての目標というのは、いろんな団体がいろんな活動をして、すばらしい業績を上げており、それらを一つの財産として残せるような形。そのためにはネットワークづくりが一つの目標になるのではないか。目標をネットワークづくりということに置いておいて、各団体の活動の様子を発表し、ネットワークづくりや情報交換のために、こういう点で悩んでいるとか、もう一歩先に進められているということを出し合ってもらえば、一つの方向性が見出せるのではないか。

(小林委員)

2008年度の統一テーマは「～世代を越えて文化・情操を高めあうまちづくり～」ということになっており、「世代」ということは、大人も子どもも男女も関係なくということで、その軸足をどこに置くのか、基軸が大事なのではないか。例えば、議長のほうから、公民館企画委員とか、いろんな関係者ということも、社会教育の102団体から選ぶというよりは、それぞれの活動しているメンバーがどのような思いで活動を繰り広げているのかということ、私たちが知ることがスタートなのではないか。その上で、例えば最終的に子どもを支援していくというところに落ち着くのであれば、子どもを支援していく学校支援地域本部というのも出てくるわけだし、学校を軸にした形でのかかわり合いを、たて糸、よこ糸をつなぐ、紡ぐという点で考えられるのではないか。

(倉持委員)

次回の話し合いの際に、もう少し具体的に話したほうがよい。それぞれ持ち寄るような形で、具体的な人・団体・地域を見ながらのほうが絞り込みしやすい。

(田中議長)

次回、ぜひ、皆さんから、紙1枚でもいいが、こんな感じで話を進めていったらいいとか、あるいは具体的な人がいるとか、そういう材料を持ち寄ってほしい。次回は5月23日の9時半から、場所は未定。決まったら連絡する。

以 上